

# グスマンの聖ドミニコ2021年



親愛なる姉妹の皆さま、

主は、新たに私たちの父聖ドミニコを祝う恵みの年を私たちに与えてくださっています。聖ドミニコの「帰天」800年を記念する今年、「聖ドミニコと共に食卓を囲んで」をテーマにしています。このモットーは、聖ドミニコについての最も古い絵画であり、ファミリア・ドミニカーナの「共有する生活」の基本的な柱の1つを反映した「マスカレラ」と呼ばれる絵画に由来しています。それは、本修道会や共同体において家族としての子どもたちが聖ドミニコを囲んで共に座る食卓です。

そしてそれは、聖ドミニコにとって共同生活が価値と基本的な柱を構成しているということです。彼は、ドミニコ会の戒律の選択として聖アウグスティヌスの戒律を選びました。「彼らは同じ一つの家に集まり、一つの家族を形成し、神において一つの魂、一つの心をもっている」ことを修道者たちに思い出させることから始まります。共同生活は、宣教が深まる肥沃な土壌です。説教するために修練者がドミニコ会に受け入れられる前に、従順と共同生活への貢献をする2つのことを求めました。

聖ドミニコは、使徒たちの生活を全面的に受け入れたいと願い、自分の兄弟たちの共同体のために初期の使徒的共同体を模範にしていました。当共同体においては、初期のキリスト者は「使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心でした。すべての信徒は、皆一つになって、すべての物を共有にしていた。心を一つにして神を賛美し、民衆全体から好意を寄せられた。」と語っています。

聖ドミニコは、全面的に共同生活をしていました。彼は、常に日常生活の行為に参加し、すべてにおいて共同体に服従していました。「彼の列聖調査の過程における証言者は、次のように述べている。彼は、あらゆる所で規則を遵守し、たやすくそれを免除されなかった。聖堂における祈り、食堂、その他の所で共同体に完全に従っていた。食事や時間帯に関しては、共同体にすべてを適応させ、教会で夜を徹して祈ることが頻繁にあったが、いつも朝の祈りに兄弟たちと一緒に参加していた。」しかしながら私たちは、共同生活がありきたりの行為のあり方だけで実践されることがあり、そこに物理的に存在することができますが、心が遠く離れていることがあります。皆が知っている通り、彼は、修道女や兄弟に対する父親の近さや優しさの細やかな心遣いがあります。聖ドミニコは、共同生活において各々が姉妹の弱さを伴う愛徳、共同体の歩みに対する積極的な参加、喜ぶ人と共に喜び、悲しむ人に同情し、あらゆることに耳を傾け、受け入れる必要があることを教えています。

また、すべてを共有にすることも述べています。物質的なこと、自己の仕事の成果だけでなく、各々の姉妹がもっている価値観、賜物、そして資質も共有しています。他者と願いを共有し、互いに助け合い、共同善を個人的善よりも優先します。

私が聖ドミニコの共同生活を模範としているなら、彼は全く人間的だったので、彼の人間性を学ぶべきと思います。

聖ドミニコの人間性は、活力と優しさ、決断力と開放性、堅固さと思いをやりを対照的に織りなしています。

聖ドミニコは、彼の人生においてさまざまな障害や多くの逆境を克服しなければなりませんでしたが、彼の性格には厳しき、厳格さ、不寛容さを見ることができません。彼と一緒に生活していた人たちの記憶によると、聖ドミニコは、彼の優しさ、敏感さ、思いやり、人間味のある美德で何よりも際立っていたと述べています。

彼は、教皇フランシスコが「思いやりは、人を変えることができる」と断言したことを生き、完全に体験しました。

聖ドミニコは、他者の苦しみや必要性を前にして心が引き裂かれ、心が痛んでいました。彼は、他者に身をおくために自分自身から出ていかれました。他者の痛みと喜びにたやすく同調しました。彼は、彼の真の人間性の特徴である、すべての人に対して温かく人間味のある行為を示しました。彼は、内面的に思いやりを感じただけでなく、他者の不正や必要にも反応しました。私たちは、彼が自分の命を与えることによって他者の悪をため直そうとした彼の人生における数々のエピソードをよく知っています。

ドミニコ会総長ジェラルド神父は、ジュビレの年にあたり、彼のある手紙において私たちに問いかけられました。私たちが今ここで聖ドミニコと共に食卓を囲んでいることにどのような意味があるのでしょうか。

私たちは、新型コロナからの感染の恐れでさえ私たちに脅かし、挑戦し、「他者と距離を保つ」ための言い訳として用いることができるこのとき、自分自身に問いかけなければなりません。

今日聖ドミニコの食卓を囲んでいるということは、まず、最も弱く、最も必要としている人、そして見る限りにおいて元気そうに見える姉妹の必要に心を配ることだと思います。各々が抱く恐れ、心配、不安に辛抱強く耳を傾け、各姉妹が自由に憂いを表明し、敬意と優しさで慰められることを促進することです。私たち皆が同じ感性をもっているわけではありませんが、何らかの「恐れ」を体験しています。「最も強い者は、最も弱い者の弱点に耐えなければなりません。」

今日聖ドミニコの食卓を囲んでいるということは、私たちがあえてお互いに、私たちの共同体において心配していること、私たちが悩ませていること、私たちが好んでいること、そして兄弟姉妹がもつ憂いについて正直に話すことだと思います。そのために私たちは、お互いをサポートし、お互いに支え合い、今日の社会において何が急務であるのかを真剣に見極めなければなりません。


共同体が姉妹たちの身の振り方、態度、言葉で聖化され、表現され、養われなければ、人間的、また精神的に進歩しません。私たちの父のように人間性と優しさを表現することにのみ、愛と交わりの偉大さを目の当たりにし、不正の叫びと人類の必要に反応することができます。聖ドミニコは、自己を取り巻く環境の現実を見据え、世界を少しでも良くすることに関与し、取り組みました。

私たちが共に住んでいる姉妹たちに心を配り、彼女たちの弱さや脆弱さを受け入れて歓迎できるよう聖ドミニコから学びましょう。彼が共に生活していた兄弟たちを受け入れたように、私たちも自分に閉じこもることを避け、必要としている人たちの叫びに耳を傾け、目を開き、働きましょう。

私は、今日聖ドミニコがお互いを愛し、支え合うことに心がける共同体を築き、この人類の痛みを少しでも和らげるために時のしるしを見極めていくならば喜ばれると思います。

聖ドミニコの祭日おめでとうございます。このジュビレの年が私たちの父の教えに従うことによって私たち自身を刷新する助けとなりますよう願っています。

姉妹的抱擁と私の祈りを添えて、

  
Sor M<sup>a</sup> Asunción González, O.P.  
Priora General

